



湯本幼児学園園だより

りずむ

令和7年2月12日

◎箱根一貫教育の合言葉

『箱根を愛し かしく やさしく たくましく』

◎湯本幼児学園個性化目標

『異年齢保育を生かした園づくり』



立春が過ぎ、暦の上では春です。最強・最長の寒波が流れ込み、寒い日が続いていましたが、湯本は日が差ししてくると園庭は温かく、上着を脱ぎ、遊んでいる子どもも多いです。『子どもは風の子・元気な子』です。

4.5 歳児のドッジボールは、毎日とても面白いです。勝った！とこぶしを上げて喜ぶ一方、負けた！と悔し泣き…一人一人、それぞれのチームにドラマがあります。4 歳児対 5 歳児で対戦していた日が何日も続いたかと思えば、先生たちに挑んできて、その後は 4.5 歳混合チーム戦と子どもたちは日々いろいろ考え、競い合うことの面白さを味わっています。学年も終わりの時期を迎える頃になると子ども同士で育ちあう姿が見られます。

こびとづかんの世界

こびとづかんのお話を知っていますか？ 日常生活の中にいるかのようにリアルで、子どもたちは存在すると信じています。散歩に行っても「川に住んでいるのはコヒレカワコビト！オオヒレカワコビトっていうのもいてね～」原っぱでは「ここにはアマツボカグラがいるかもしれない！」と特徴や大きさまでもよく知っていて話が止まりません。

先生たちは、それを面白がり、時にはフィギュアを仕掛けたり、粘土や紙など用意してこびとを作れるコーナーを設けたりして、遊びが広がるようにしています。捕獲方法があるようで、仕掛けを作っている子どもも！現在、森や竹藪を作り、こびとの森を作っています。

そういえば、私も小学生の頃、コロボックルシリーズを好んで読んでいて、もしかしてこの世界にコロボックルがいるのではないかと想像して楽しんでたことを思い出しました。それと同じ感覚なのか…空想の世界を存分に楽しんでいる姿を見て、わくわくしています！



子どもたちの作ったこびとたち

お正月遊び(1/26)

地域の方と社会福祉協議会の方とあわせて 17 名いらしてくださり、子どもたちとカルタやお手玉、福笑い、羽根つき、凧あげなど日本の伝統的な遊びました。こま回しやけん玉は子どもたちができると感動され、「すごいな」「ひももまけちゃうの」と感心されていることが子どもにとってはとても誇らしげで自信となっていました。

『できないことができた』達成感を味わったからこそ、今も続いています。

これは、ゲームでは味わえず、実体験から得られる感覚です。ご家庭でもぜひ楽しんでください！



お別れ遠足・伊勢原市こども科学館(2/7)

自分たちで計画してお別れ遠足に行ってきました！

園長から 8:30～15:00 までに帰ってこられるところならどこへでも行ってよいことを伝えました。園でも ICT 化が進み、コードモンが導入され、ipad が使えるようになりました。子ども達はインターネットを活用し、園長からの条件をもとにやりたいことや行きたい場所、時間などを何日かけて練りに練って決めました。わくわくしてとても意欲的に話が進み、心が一つになっていることがわかりました。

そして、当日は嬉しくて嬉しくて…うきうきわくわく湯本駅を出発！少し離れた場所の電話のやり取りを楽しむ子ども、ピタゴラススイッチのようなしなやかな動きを楽しむ子ども、自転車をこいだり、回転したり、体を動かしたり動力のしなやかさを楽しむ子ども、パソコンを楽しむ子どもなど科学のおもしろさに触れ、大満足の日でした。子どもの意欲からの達成感は成長につながっていることを実感します。と共に大人のように効率よくはいかないけれど、『子どもを信じる』『子どもを信じて待つ』ことの意味を改めて感じました。



被災地・能登へ(2/5)

バザー前に「チームいとへん」さんに作っていただいたエプロンや巾着などの仕上げをしている時に、被災地への支援活動を行っている話を伺い、賛同しました。子どもたちは年末から折り紙でクローバーを 100 個折り、「きぼうのたね」と書いて仕上げ、いとへんさんが作ったひな人形の中に入れました。当日は、社会福祉協議会の井上さんが 12 月に能登に行った話をしてくださいました。自由に外で遊べない子どもがいること、家や家族を失った子どもがいること、グラウンドに仮設住宅があることなど真剣に聞く子どもたちでした。『自分たちができること』それがとても大きな力になることを知っていくことでしょう。後日、能登から届いた時の様子の写真が届くことになっています。

